

スマイル タウン

2023
秋号

第327号

ひの社会教育センターは、市民のみなさまの“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する施設として、1969年に日野市と（財）社会教育協会が協定書に基づいて設立しました。今月もセンターで生きがいづくりをされる沢山の市民の方々の活動をお伝えします。

おとな講座『土曜あーとスペース』



自由に描く、
自分の世界



- 新コーナー「くらしの中で見つけた社会教育」
- 表紙の講師は…土曜あーとスペース 古代高義先生
- ひの社会教育センターからのご案内・賛助会・寄付お礼等
- 職員・スタッフの『わたしのサステナブル』コーナー

新コーナー 「くらしの中で見つけた社会教育」

新コーナー「暮らしの中で見つけた社会教育」では、社会教育協会やひの社会教育センターの職員・スタッフが学びの報告をします。

さまざまな社会課題に、社会教育をおこなって取り組んでいくために、日々、実践の中にある職員やスタッフがそれぞれ関心のあるテーマを取り上げ、その分野の実践家や専門家に話を伺い、対話をおこなって学びます。

第一回は、社会教育協会事務局の星野一人と、ひの社会教育センター館長の阿部和広が、現在、社会教育協会の理事に就いていただいている、白梅学園大学の教授、森山千賀子先生にお話を伺いました。介護福祉学が専門研究分野の森山先生は、近年は学習権や、ヤングケアラー問題に注力されており、大学周辺の行政機関とも連携し、地域ぐるみで課題解決に取り組んでいらっしやいます。

ヤングケアラーを切り口に、子どもに関する社会問題をどう考えるか。

阿部…

現在、ひの社会教育センター（以下、センター）として、日野市からの委託事業で近い分野を担当しているものはあるものの、単独で「福祉」事業を実施しているのはありません。ただ社会教育は福祉に近い領域を担うこともよくあり、現在の子どもたちをとりまく環境要因や、社会課題の一つとして、報道などでも取り上げられる

ことが増えたヤングケアラーのことなどを中心に伺いたいと考えています。

森山…

ヤングケアラーについて考えるとき、子どもの権利条約を軸にして考えることがベースとなります。親や近しい人の看護や介護を担う権利も、担わない権利もあり、子どもはどちらの権利も選ぶことができるようにすることが大切です。そのバランスの中で、子どもの成長や発達を考えるというのが国の指針でもあります。

阿部…

森山先生も、学生さんと共に大学周辺の地域で活動をされていると伺いました。

森山…

小平西地区地域ネットワークという活動があります。例えば、生活困窮者自立支援法による学習支援事業では、制度の枠組みに縛られるため、制度の枠組みを超えた活動をしています。地域の公民館を会場に、民生委員さんや学校の先生とも連携して、小学6年生から参加できる勉強会を開催しています。現在は、外国にルーツのあるお子さんも参加しており、学習支援だけではなく、言葉の問題や家庭での問題など、抱える問題は子ども一人だけのことではないと感じています。

阿部…

センターでも学習支援事業を委託事業で運営していて、現場を任されている一つの団体ではないので、目の前の事象に対応するしかないのですが、学校や家庭での問題を抱えつつも、困っている子どもは目の前にいるため、対応しきれいなのが現状です。



↑ 様々な居場所作りに取り組んでいます

星野…

言語の問題や様々な環境要因がある中、子どもの生存が危うくなることは問題で、今日・明日解決できることではないですが、語れる場が必要なのかな、と思います。

生きる権利・学ぶ権利

森山…

祖父母、親、子という3世代の中において、「親」にあたる立場の人が「子育てと介護のダブルケア」の役割を担う問題なども見られます。いくつになっても自由に学ぶ権利を保障する学習権を守るため、小さい子連れの保育付きの講演会にならない、介護を必要とする方と一緒に来られる介護付きの講習会を開催したりしています。

また、40代で介護保険被保険者となり、保険料を支払っているにもかかわらず、実際に親が制度を使うときに、まず何からすればよいかわからない状況になることが多いことから、必要にせまられる前に制度を知っておく勉強会などもよいかもしれません。いかに30代、40代に地域に出てきてもらうか、そして「いくつになっても学ぶ」というところがキーワードかなと思います。

社会教育協会より

【社会教育ミラム】

10月14日に名古屋市のコミュニティセンターで、利用者の夫妻が男に刺されけがを負う事件がありました。逮捕された男は近隣の住民で、日頃からこの施設の活動の音がうるさいと苦情を入れていたとのことでした。事件当時も、この施設ではノブベルを歌う活動が行われており、被害に遭った夫妻もそのメンバーだったそうです。ひの社会教育センターも音楽活動を多数行っており、本当に他人事ではない事件だと感じます。

昨年は長野市で、子どもが遊ぶ声に対する苦情を引き金に児童公園が廃止されるという出来事もありました。騒音問題の専門家である八戸工業大学名誉教授の橋本典久さんは、こうした問題の多くは騒音ではなく、人間関係のありようなどで音がうるさく聞こえてしまう「煩音(はんおん)」が原因だといいます。工場などの騒音は防音対策で抑えられますが、「煩音」は誠意ある対応により当事者の関係性が改善されない限り解決されないと述べています(「Yahoo! ニュース個人」10月17日更新)。名古屋市の件も、利用者や住民を交えた率直な対話の場があれば、大事に至らなかつたかもしれません。

10月15日に行われたイベント「こどもと話す民主主義」では、デスマークでは小さいころから対話を積み重ねて人が育っていくと語られていました。世界のあちこちで紛争が起きている今だからこそ、「争いごとがあれはまず対話を」というのを一人ひとりが意識して日々を過ごすことが求められているのではないのでしょうか。

星野一人(公財)社会教育協会事務局長



阿部…
ここにお邪魔しているメンバーは皆40代で、まさにこれから直面する問題で、そして誰しもが通る道ですよね。

森山…
知らずにいることで、通い介護などの負担につながり、ひいては「親」にあたる人が自宅をあげることで、ヤングケアラー問題が発生することもあるかもしれません。

阿部…
直接的に「ヤングケアラー問題、どうしよう」というと、できることが限られますが、地域の協力機関と連携しながら取り組めることがあるのではないかと、事業のヒントになりました。

今後の社会課題

阿部…
学習支援の現場では、日々の対応の中で、自分の持っている「普通」を揺らがすようにしないといけないと常々感じます。一般的な「普通」を振りかざすのではなく、気持ち切り替えています。

森山…
その辺りが社会教育の課題かもしれませんね。
今、こういう状況だからこの社会資源を使う、という判断を若い世代の人でもできるようになってきていると思います。それを普通に使えるものだといいことを、もっと広く知ってもらう必要があります。

星野…
自分ひとりだけで解決するのではなく、「頼っていい、声をあげていい」ということを、うまく伝えていけるといいと思います。



↑ 右・森山千賀子先生
左奥・星野 左前・阿部

阿部…
高校等を卒業して学習支援の年齢を終えたユースの子たちへの支援が手薄になってしまいうことも不安視されています。進学したから大丈夫」と社会的に孤立してしまう前に、学習支援の延長で、社会人としてやっていけるようになるまで付き合っていくけるよう、日野市自体も、ユース年代の居場所づくりをしていく方針を打ち出していて、子どもたちにとって頼れるところが、地域にあるのは安心なことです。関係づくりは手間も時間もかかることですが、利用している子の目線で付き合っていくことができるが、「わたしたちの強み」という気持ちで進めていきたいです。

森山…
社会教育は福祉の肩代わりではなく、生存権の部分は福祉の分野。その周りを醸成していくのが社会教育の役割のように思います。今後いろいろな事業展開を期待しています。

今後、高齢者に関わる事業等で、市内事業所の皆さんとも連携し、企画のヒントにしていきたいです。

表紙のクラス紹介

『土曜あーとスペース』講座

土曜日 午前10時～12時
講師 古代 高義 先生

絵画教室といえば、モデルとなる人物や静物を囲んだ生徒さんたちが、それらを模写する様子を想像するかと思います。

「土曜あーとスペース」は、それとはだいぶ様子が違っていています。

まず、共通のモデルやモチーフはなく、会員さんたちはそれぞれ思い思いのものを、様々に描きます。絵の具や色鉛筆、クーピーなど、使っている道具も様々。

教室で描く人もいれば、ご自宅で仕上げてきたものを先生に見せている人もいて、そのやり方も自由。先生はお一人お一人に声を掛けながら、じっくり作品と向き合います。

「みんなが同じものを描くと、上手か下手かしか見なくなるんですね。」そう教えてくれた先生が、皆さんに掛けている言葉は「これは傑作」「うっとりする」「飛びぬけていいね」「特別にいい」などなど。他の人と比べるわけではなく、その方のこれまでの作品を思い浮かべての言葉だな、と想像できます。



それぞれのスタイルで自由に描く



→ときには古代先生が描くことも。

先生に聞きました!

みんながそれぞれ別のものを描くこと。それを見せ合ったり、声を掛け合ったりすることで、お互いに刺激をもらい、こんな表現も出来るのかと啓発されるのです。色や形から話し掛けてくるんですよ。それは会話を交わしていくことと同じ。自分の思ったことを自然に楽しみ、見たり描いたりすることを大切にしたいと思っています。

センターの開館初期からあるこちらのクラス。一番長く在籍している方は40年だから。

運営の仕方なども会員の皆さんと対話を重ね、いつまでも自由に楽しめるスペースであってほしいと感じました。

◎スタディーツアーのご案内 (2024年度予定)

ボルネオフレンドシップスタディーツアー

各分野のスペシャリストと行く高所登山への挑戦と環境スタディーツアー

行先：ボルネオ島
日程：2024年8月16日～23日(8日間)

募集対象：中学生～大学生(定員先着12名)
募集中～2/28締め切り
ツアー代金：620,000円(税込)



〈ツアー内容〉

東南アジア最高峰キナバル山(標高4,095m)への登山や、豊かなボルネオの自然や野生生物を探訪

デンマークツアー'24

「対話」を重ね、「自分で決める」ことを通し、デモクラシーが根付く国、デンマーク。現地在住で教員として働くピーダーセン海老原さやかさんがツアー全体の「学び」をデザイン。

行先：デンマーク
日程：2024年5月4日～13日
(10日間)

募集対象：成人(定員先着13名)
募集期間：12/20～1/31締め切り
ツアー代金：調整中(予定65～70万)
オンライン説明会：12/10(日)17:00～



〈ツアー内容〉

デモクラシーが根付く国、デンマークの学校や地域住民のための施設等を訪れ、生き方・働き方・暮らしを考えるツアー。

※上記ツアーはどちらも、詳細はひの社会教育センターHPをご覧ください。



私は、ランチが出来る子育てひろばモグモグに勤務しています。モグモグでは調理時に出た生ごみをコミュニティガーデンに持っていき、たい肥として活用しています。私はそのことがきっかけとなり、わが家でも「ベランダコンポスト」に挑戦し、生ごみからできたたい肥で野菜づくりを始めました。

昨年はミニトマトとバジルを、今年はたくさんの万願寺とうがらしができました。初めて自分で育てたバジルでパスタソースを作って食べた時の美味しさは、今でも覚えています。そして面白いことに、たい肥と混ぜた土から何やら芽が出てくるんです。あの時のじゃがいもかな…と考えることもまた楽しく、ベランダの小さな小さな家庭菜園は私の趣味の一つとなりました。家庭の生ごみも減り、美味しい野菜を食べること、それは地球のために出来るできる私のサステナブル！

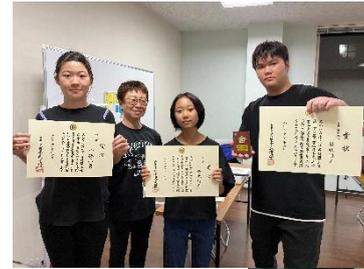
職員：栗澤

◎各教室の会員さん、活躍しています！

【報告】



【けん玉道場】第36回日野けん玉大会開催



【金曜子ども習字】高円宮杯にて各賞受賞

【剣道】日野市民体育大会出場



【今後の予定】

●ひの社会教育センターのイベント

- ・北海道物産 12/1,2 (ほっこり市12/2同時開催)
- ・新春のつどい 1/14

- ・太極拳 11/3大会出場予定
- ・ヴァイオリン 2/11発表会
- ・ドラム 3/17発表会

●共催等のイベント

- ・日野市公民館との連携事業プログラム
3/20(水・祝)映画『ぼくたちの哲学教室』
上映&ミニワークショップ
全国のミニシアターで、現在も上映・再映されている、アイルランドのドキュメンタリー映画。
※詳しくは今後HPにて更新します。



賛助会へのご協力ありがとうございます

★順不同・敬称略

- ①個人会員 1口 1,000円
北村正・素子3口 熊谷亜由美5口
澤渡夏代ブランド4口 進緑3口
盛岡茂子14口 阿部好治10口
山田井佐子3口 高橋祐二6口
- ②団体会員 1口 5,000円
いにしえ体操会1口 うどの大木2口